

八甲田山の火山活動解説資料（平成 26 年 7 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺の地震は、2014年2月頃から減少し、今期間も少ない状態で経過しました。2013年4月から7月にかけて増加した大岳山頂直下の地震活動も少ない状態で経過しました。

2013年2月頃から11月頃にかけて小さな膨張性の地殻変動がみられましたが、その後、停滞した状態が続いています。

噴気活動や地殻変動の状況に特段の変化は認められませんが、大岳山頂直下の地震活動は継続していることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況

噴気等の異常に関する通報はありませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2～4）

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺を震源とする地震は、2014 年 2 月頃から減少し、今期間も少ない状態で経過しました。2013 年 2 月から発生し始め、同年 4 月から 7 月中旬にかけて増加した大岳山頂直下付近が震源と推定される火山性地震は、2013 年 7 月下旬から減少し、今期間も少ない状態で経過しました。

火山性微動及び深部低周波地震は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図5、図6）

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、八甲田山を囲む基線で、2013 年 2 月頃以降小さな膨張を示す地殻変動が観測されていましたが、8 月頃から鈍化し、11 月頃からは停滞した状態が続いています。

南荒川山、駒込深沢の八甲田山を挟むGNSS¹⁾ 連続観測結果では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 8 月分）は平成 26 年 9 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、弘前大学、東北大学、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

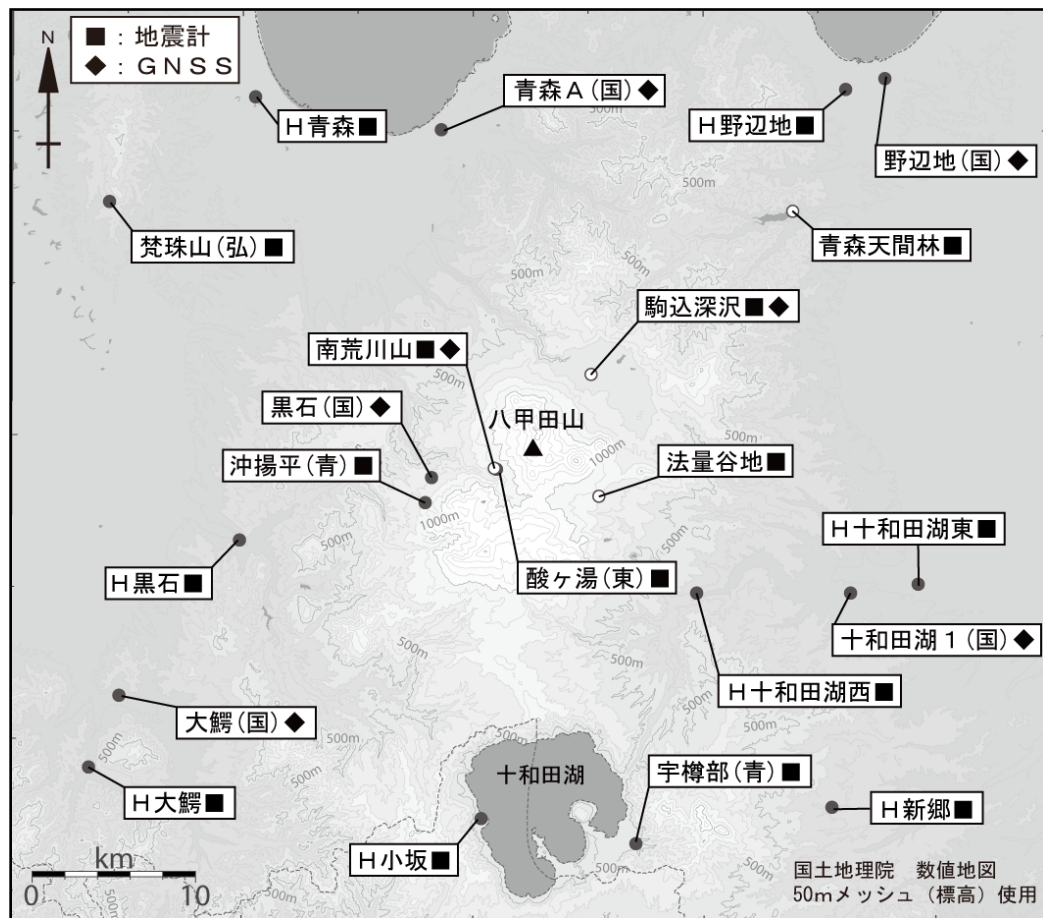


図1 八甲田山 観測点配置図

- ・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
- （弘）：弘前大学 （東）：東北大学 （国）：国土地理院 （青）：青森県
- H：独立行政法人防災科学技術研究所

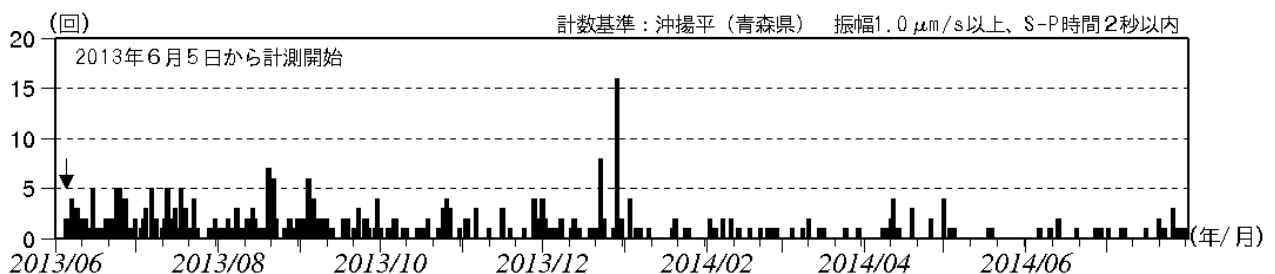


図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2014年7月）

沖揚平（青森県）のデータを元に、2013年6月5日から地震回数の計数を開始しました。

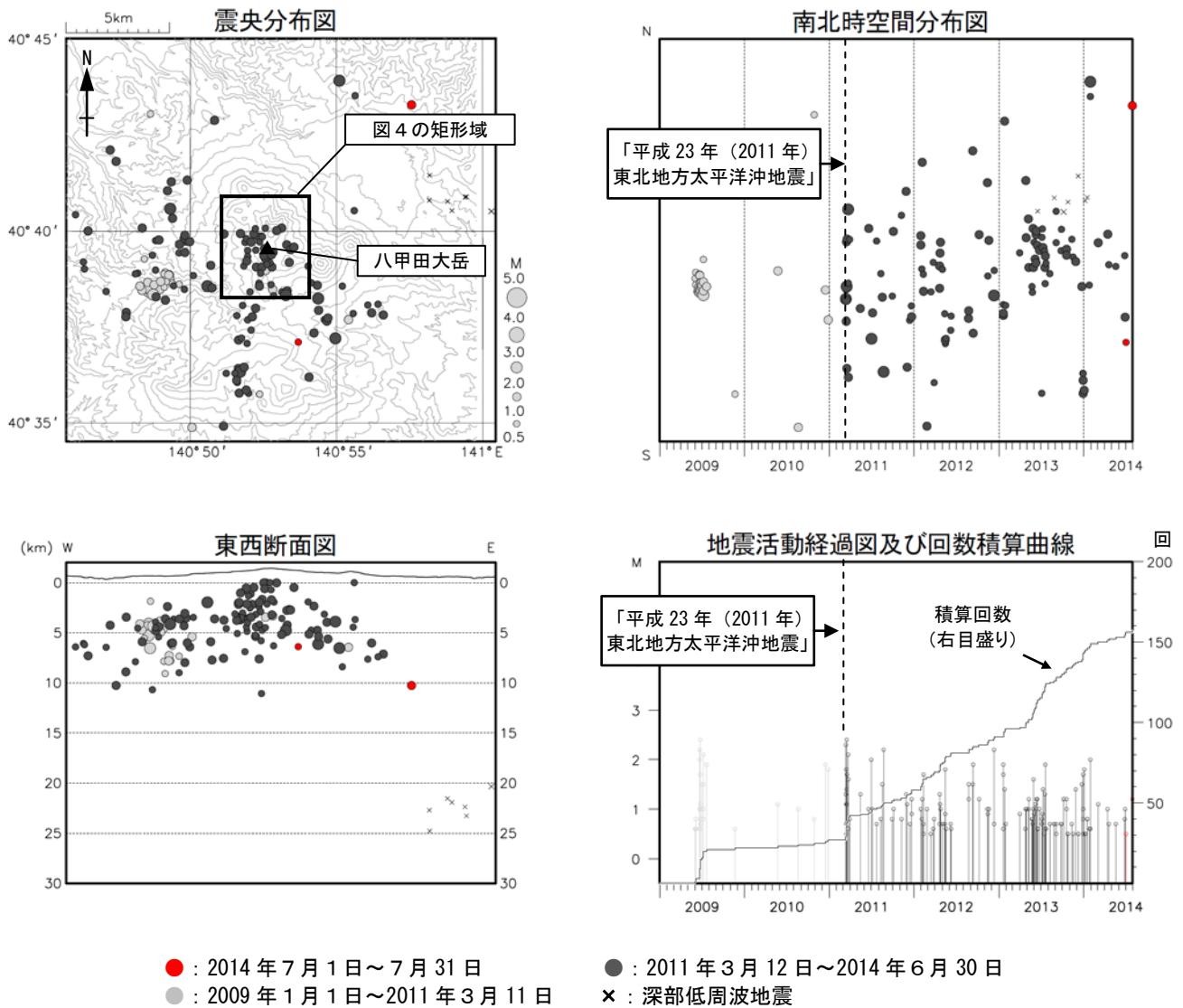


図 3 八甲田山 広域地震観測網による八甲田山周辺の地震活動図（2009 年 1 月～2014 年 7 月）
 沖揚平観測点（青森県）が 2013 年 2 月 14 日～5 月 24 日まで障害のため検知能力が低下しています。
 M（マグニチュード）は地震の規模を示します。

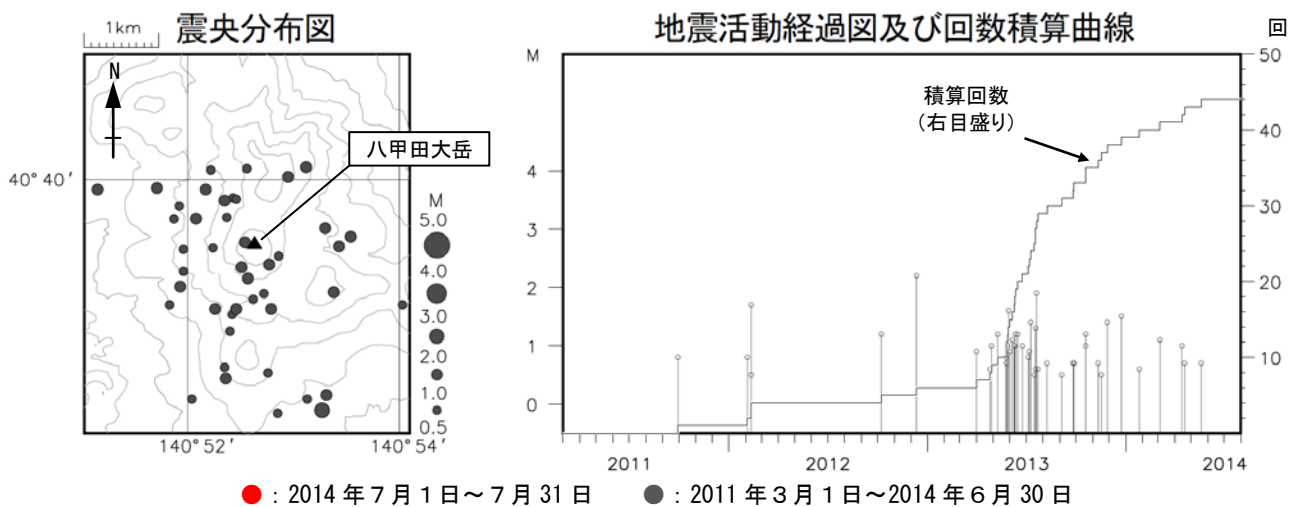


図 4 八甲田山 広域地震観測網による八甲田大岳山頂付近の地震活動図（2011 年 3 月～2014 年 7 月）

図 3 震央分布図内の小矩形域を拡大しています。
 M（マグニチュード）は地震の規模を示します。

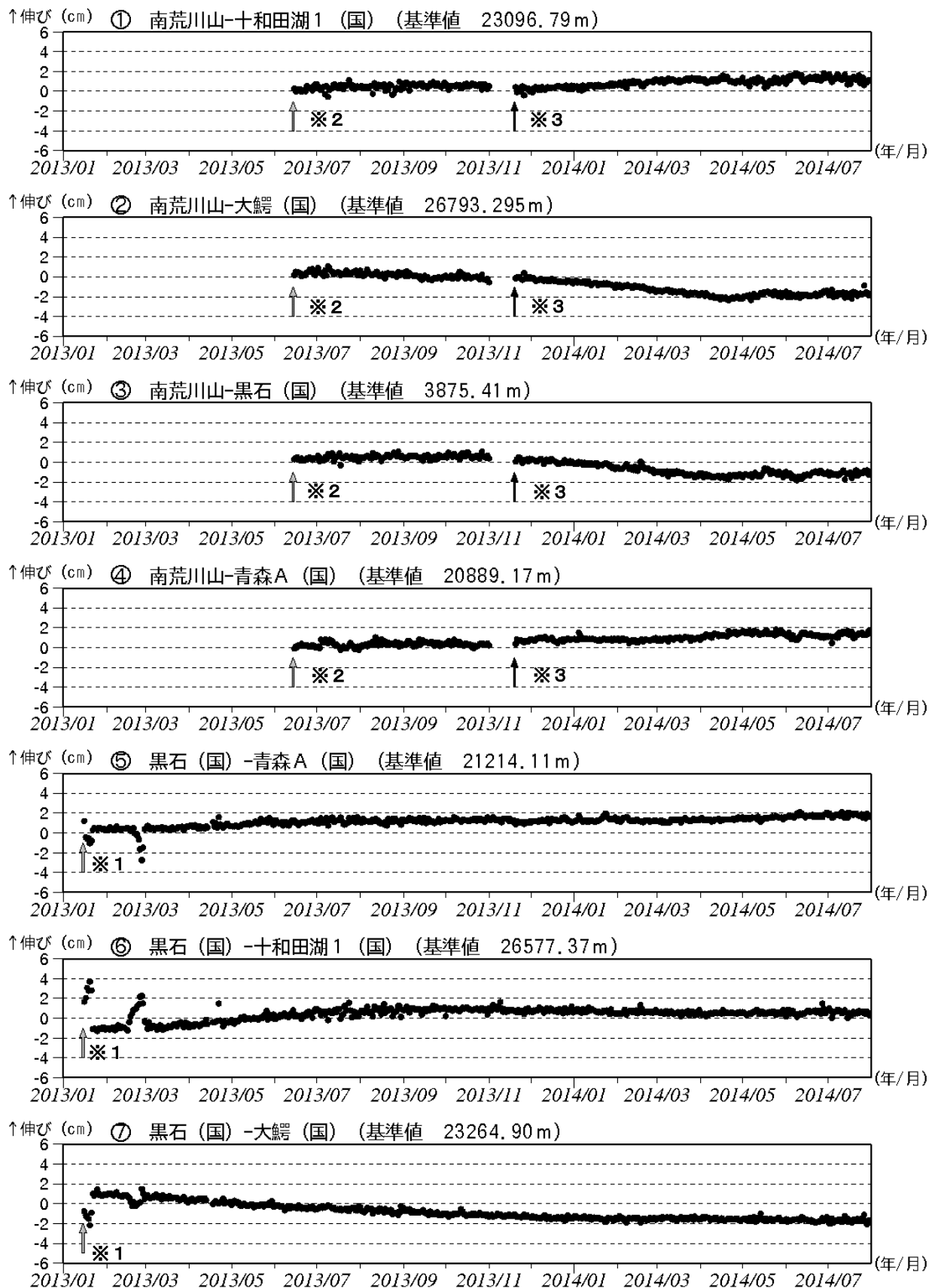


図 5-1 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013 年 1 月～2014 年 7 月)

- ・①～⑦は図 6 の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・各基線の基準値は補正等により変更する場合がありますが、最新の値のみ表示しています。
- (国)：国土地理院

※1 2013 年 1 月 16 日より解析を開始しています。

※2、3 南荒川山（臨時観測点）は、2013 年 6 月 15 日から 11 月 1 日まで現地収録型で運用していましたが、機器の移設・更新を行い 11 月 19 日からは常時観測で運用しています。図は基準値を補正して接続しています。

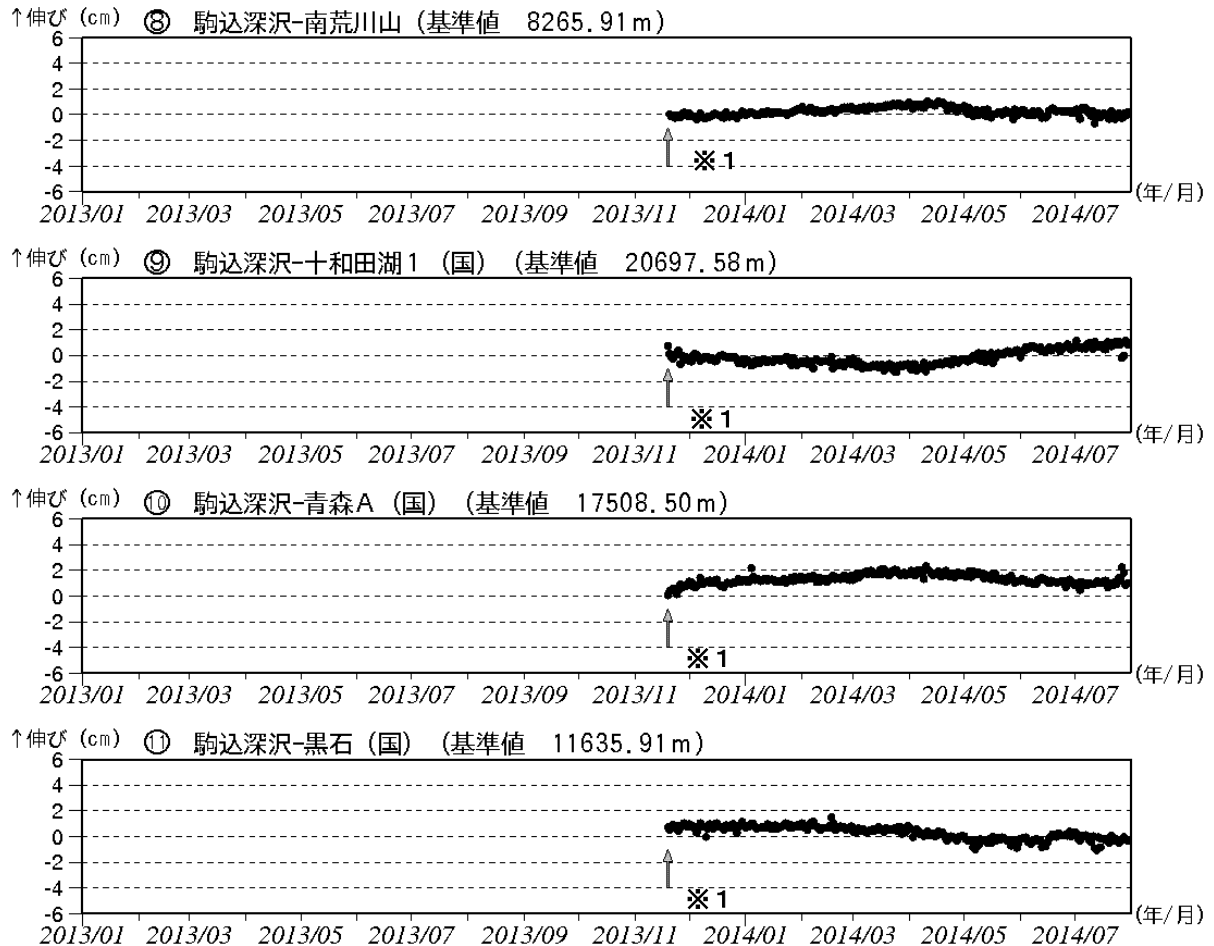


図5-2 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013 年 1 月～2014 年 7 月)

- ・⑧～⑪は図6のGNSS基線⑧～⑪に対応しています。
- ・南荒川山観測点では、設置直後から6月頃にかけて、積雪の影響と考えられる局地的な変動がみられます。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合がありますが、最新の値のみ表示しています。

(国)：国土地理院

※1 駒込深沢観測点は11月18日から常時観測で運用しています。

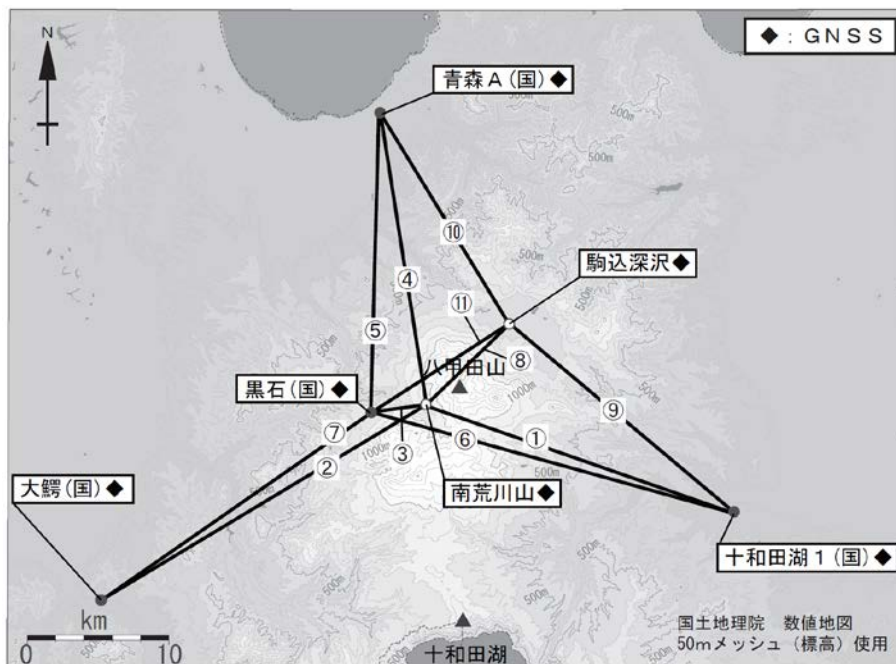


図6 八甲田山 GNSS 観測点配置図

- ・小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院